

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第2回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成25年10月21日(月) 午前10時00分～午後0時10分
開 催 場 所	武蔵村山市役所301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：佐々委員(会長)、布田委員(副会長)、志茂委員、乙幡委員、大友委員、染谷委員、田江委員、小幡委員、増田委員、篠崎委員、齋藤委員、安彦委員 欠席者：なし 事務局：高野子育て支援課長、加藤保育グループ主査、鈴木保育グループ主任
議 題	議題 (1) ニーズ調査票(案)について
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保留 事項等を記載す る。)	議題(1)について ニーズ調査の実施概要(予定)及び調査票(案)について、委員による意見に基づいて、整理・修正を検討する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則 として発言順に記 載し、同一内容は一 つにまとめる。)	<p>1 開会 ○佐々会長あいさつ</p> <p>2 報告 (1) 第1回子ども・子育て会議の会議録について ○事務局より、第1回子ども・子育て会議の会議録について説明が行われた。※資料1</p> <p>(事務局) 今回の議事録から配布資料の項目を追加で設けた。議事録の内容について一週間程度各委員が精査し、その後情報公開の手続きに入る。</p> <p>【質疑応答】 (佐々会長) 前回会議の冒頭に市長のあいさつがあったが、子ども・子育て会議の全体のまとめとして、議事録に入れるべきではないか。</p> <p>(事務局) 市長のあいさつの内容については把握している。関係部署と協議をして、会議録に入れるか、別の形(ホームページ)に掲載するのかを検討したい。</p> <p>(2) 武蔵村山市における保育施設等の概要 ○事務局より、第1回子ども・子育て会議の会議録について説明が行われた。※資料2</p> <p>【質疑応答】 (委員) 市内の幼稚園に市外から通っている児童が30%いるということだが、どこの自治体から通ってきているのか。</p> <p>(事務局) 資料としては用意していない。村山いずみ幼稚園は瑞穂</p>

町からの児童が多いと聞いている。東京多摩幼稚園は緑ヶ丘にある関係上、東大和市からの児童がたくさんいる。武蔵みどり幼稚園は大南3丁目にあることから、立川市から通っている園児が多い。次回に補足説明資料として提出する。

(委員) 市内の認可保育園に通っている市外の児童はどのくらいいるのか。

(事務局) 資料2「平成25年度入所者数・待機児童の状況」に記載しているがどこの自治体から通ってきているかは記載していない。市内から転出した家庭のお子さんが引き続き市内の保育所に通っているという例もある。

(委員) 保護者の職場や通勤路の近辺だからという理由で、市外の人が市内の保育所を利用しているということもあるか。

(事務局) そういったケースも考えられる。しかし、市内のお子さんの保育所への入所が一番に優先される。保育所の定員が空いた状況でなければ、基本的に市外のお子さんが市内の保育所に入所することは難しい。

(委員) それでは、いま入所している市外のお子さんは、前年度から引き続き入所しているということか。

(事務局) そういった場合もあるが、把握するのは難しい。市の立場としては、武蔵村山市の市民が市外の保育所に入所している数と同じくらいの市外の児童数は、市内の保育所で受け入れなければならないと考えている。

(佐々会長) 行政側で毎月の児童数を追跡することは難しいと察する。保護者の側が保育園の空き状況を知りたいければ、ホームページなどで空き情報などが開示している場合が多いので、そこで参照できる。幼稚園の転出入の公的把握時期は5月1日で、幼稚園は文部省に転出入の数字を出す。その時期に市は情報を出し、また途中の空き状況などについても、随時情報を開示することが必要になる。資料の中では1歳児の待機児童が多いが、育児休暇を1年間取る人たちが増えたことで、どの自治体も同じような傾向にある。各委員にはそういったことを読み取りながら、資料を精査して欲しい。

3 議題

(1) ニーズ調査票(案)について

○事務局より、ニーズ調査票(案)について説明が行われた。
※前回配布資料7-1, 資料7-2, 資料7-3

(事務局) 資料7-2「就学前のお子さんを対象としたアンケート調査」について、青字で記載している設問については、削除しない方向でお願いしたい。

(佐々会長) 青字の部分の設問は、集計した数値を東京都内の各自治体が都に報告し、その集約した数字を各都道府県が国に報告することになっているので設問自体を削ることは難しい。

○「就学前のお子さんを対象としたアンケート調査」各設問の精査

【質疑応答】

・問1について

(委員) 問1の選択肢にある、「4. 第四小学校」はないのではないか。また就学前のお子さんをお持ちの保護者は、まだ自分たちがどこの小学校区に属しているかわからないのではないか。

(佐々会長) 問1の選択肢は、宛名のお子さんの住んでいる住所地(丁名等)ではいけないのか。あるいは注釈で分かりやすくすることは可能か。

(事務局) 「4. 第四小学校」を「4. 村山学園第四小学校」と変更することは可能である。

(佐々会長) 他の自治体では丁名等を選択肢にしているところもある。小学校区を選択肢にする必要があるのか。次世代育成支援行動計画の際も小学校区を選択肢に用いたか。

(事務局) 次世代育成支援行動計画の時の選択肢については、調べて回答する。

(委員) 小学校区として数値が必要というのであれば、住所地(丁名)を選択肢にしてもいいのではないか。

(事務局) 次世代支援行動後期計画を参考にしながら、大字(丁名)等で選択肢を設ける方向で進めたい。

(委員) 問の中で□に数字を記入させる箇所が多々あるが、数字の統一的な記入の仕方があったほうがいいのではないか。

(佐々会長) データ入力の際に統一的になっていない数字についての修正は可能である。入力時に間違えないようにしてほしい。自由記述欄の「その他()」の部分に「ご自由にお書きください」の注釈が必要ではないか。表紙の<ご記入についてのおお願い>のなかに説明を加えてもらいたい。

(事務局) 検討する。

・問15について

(委員) 問15-4の(あてはまるものすべてに○)と問15-5の(最もあてはまるものすべてに○)に違いはあるのか。“最も”ならば一つしか選べないのではないか。

(事務局) 国のモデル調査票の文言を現時点では使用している。ここは必須の間ではないので、委員の総意があるなら“最も”という文言を削除し、問15-5も(あてはまるものすべてに○)に統一する。

・問20について

(佐々会長) 問20の選択肢「⑦赤ちゃんふらっと」という名称は武

蔵村山市でそのまま使われているのか。

(事務局) そのままの名称(赤ちゃんふらっと)で使用している。
ただ認知されているかどうかはわからない。

(委員) 「赤ちゃんふらっと」が授乳スペースやおむつ替えスペースだということが分かるように、説明を付けてもらいたい。

・問23について

(佐々会長) 問23-1の注釈に「※「キ.ファミリー・サポート・センター」には、「病児・緊急対応強化事業」による利用も含まれます。」とあるが、蔵村山市のファミリー・サポート・センターでは、「病児・緊急対応強化事業」を行っているのか。

(事務局) 行っていない。「※「キ.ファミリー・サポート・センター」には、「病児・緊急対応強化事業」による利用も含まれます。」の文言を削除する。

・問25について

(委員) 問25の「数字は一枠に一字」の文言を、他の問の「数字は1枠に1字」のように、算用数字に統一すべきではないか。

(事務局) 調査票全体を通して、そのように修正する。

(佐々会長) 問27の「放課後児童クラブ」という名称は、蔵村山市で使用しているのか。

(事務局) 「放課後児童クラブ」という名称は、国の使用している名称である。蔵村山市では、「学童保育クラブ」という名称を使用している。

(佐々会長) 蔵村山市民が分かりやすいように、「学童保育クラブ」という名称を問に用いるべきではないか。

(事務局) 国の制度上の正式名称に括弧書きで蔵村山市での名称は付け加えている。

(佐々会長) その場合、「蔵村山市では～という名称である」という注釈が必要ではないか。

(事務局) その方向で修正する。

・問27について

(委員) 問27の前提に「あて名のお子さんが5歳以上である方に～」とあるが、お子さんの年齢を確定する基準日はどこかに記載されているか。

(事務局) 表紙に「平成25年10月25日現在の状況」と記載している。

(委員) 5歳の時点では小学生になっていないので、「放課後の過ごし方」はまだ関係ないのではないか。

(佐々会長) この問は将来においてお子さんにどのような「放課後

の過ごし方」を望むのかを訊ねる設問なので、1～2年後に小学校になるお子さんには関係ある。

(委員) 注釈「※2「放課後子ども教室」」の説明は、就学前のお子さんの家庭には分かりにくい。説明の文字をもっと大きくすべきではないのか。

(事務局) 文字の大きさに関して対応する。

(佐々会長) 現在、武蔵村山市の児童館はいくつあるのか。

(事務局) 児童館は6箇所ある。

(佐々会長) その辺りを分かるように注釈に加えるべきではないか。自分の地域のあの施設のことだと、対応関係でわかるようにしてもらいたい。また、一定の利用料がかかることが分かるように、記載するべきだ。

(委員) 「学童クラブ」は料金が掛かるということと、「放課後子ども教室」はお金がかからないで学校でできるということ、分けて大きめの文字で示して欲しい。

(委員) 問27と問28の注釈※の説明部分が詰まっていて見にくいので、改行するなど間を空けて見やすくするべきではないか。

・問29について

(委員) 問29の「放課後児童クラブ(学童保育クラブ)」の土日祝日利用について、「一定の利用料がかかる」と説明がついているが、利用料は月額負担で、土日祝日だからといって余計に利用料がかかるわけではない。この設問では土日祝日にも別途利用料がかかるように見えて分かりにくいのではないか。

(佐々会長) 現在の利用料についての説明や資料を添付している自治体もある。現在されていないサービスが開始された際、追加の利用料がかかる可能性もあるということを、うまく設問に表現して欲しい。

(事務局) 整理して表記する。

・問31について

(佐々会長) 問31-6の「②父親」を他の設問と同じく「②お父さん」に統一するべきではないか。

(事務局) 問31-7を含め、全体的に修正・統一する。

・問32について

(佐々会長) 問32の満足度について、5段階の数字を文言に置き換えるべきではないか。

(事務局) 国のモデル調査票に従って数字を用いた。次世代支援事業後期計画策定時の満足度調査の問と整合性をとって、表現を

修正する。

・問33について

(佐々会長) 問33の「市町村の取り組み」を「武蔵村山市の取り組み」にするべきではないか。

(事務局) 検討する。

○「小学生のお子さんを対象としたアンケート調査」各設問の精査

【質疑応答】

(委員) アンケートの表題に「就学前のお子さんを対象とした～><小学生のお子さんを対象とした～>とあるが、実際の対象者はお子さんの保護者ではないのか。また、間に「あて名のお子さん」という文言が頻出するが、調査票のあて名がお子さんの名前だと、間違っ捨ててしまうことにはならないか。

(佐々会長) 保護者の名前が属性として分からないケースもある。母子家庭や父子家庭の場合や、父親と母親のどちらをあて名にするかという問題もある。

(事務局) 「(お子さんの名前)の保護者様」というあて名にすることは可能である。

・問1について

(佐々会長) 問1に関して、「就学前お子さんを対象にしたアンケート調査」と同様に統一して修正して欲しい。

・問4、問6について

(委員) 問4や問6の選択肢にある「父親」「母親」を「お父さん」「お母さん」に統一するべきではないか。

(佐々会長) 選択肢として特に無理がなく、スペースの都合上修正する必要はないと思う。

(事務局) 検討する。

・問15について

(佐々会長) 問15も「就学前お子さんを対象にしたアンケート調査」と同様に、「学童クラブ」の文言を「学童保育クラブ」に統一して修正してもらいたい。

(委員) 問15-1に利用時間を「具体的な数字」で記入とあるが、利用している時間はまちまちなので、「最も多いパターン」の文言を入れて欲しい。

・問16について

(佐々会長) 問16の「(2)日曜・保育」の利用希望だが、今現在、日曜・祝日に学童保育クラブのサービスは実施しておらず、その分の利用料は追加でかかることを表記すべきではないか。

・問18について

(佐々会長) 問18の注釈☆の説明文の文字をもっと大きく見やすくしてもらいたい。

・問19について

(佐々会長) 問19の修正は「就学前お子さんを対象にしたアンケート調査」と統一して行ってもらおう。

・問21について

(佐々会長) ファミリー・サポート・センターについて、問21-3の選択肢においてようやく括弧書きで説明が付けられているが、この文言の初出時に説明を付けるべきではないのか。

・問26について

(佐々会長) 問26に(最も近いもの3つまでに○)とあるが3つ選ばせるのなら「最も」という文言を削除してもらいたい。選択肢の「1. 保育量の減免」のなかに幼稚園の補助制度のことも含まれるのか。保育量すべてを含んでの減免か。また「7. 乳児医療の拡大」とあるが、具体的にどういったものか。

(事務局) 乳児医療に関して所得制限が撤廃されているものや所得制限されていないものも色々ある。ひとり親の家庭では負担が重くなっている現状もある。子ども医療、乳児医療、ひとり親医療によって様々なので、その辺りの要望を汲み取りたい。

(佐々会長) 武蔵村山市で聞きたいような選択肢に変えることはできないか。

(事務局) この設問に関しては、次世代支援後期行動計画から引き続き設けている問である。

(佐々会長) 今度の新しい子育て新法の場合、保育料の減免というところ、認証保育所など子育て施設全部を含めるのかがさだかではない。次世代育成支援事業の場合と異なるのではないか。「乳児医療の拡大」にしても、医療費の無料化や病院の設置など、どこまで入るのか。

(事務局) 所得制限の撤廃という辺りになる。医療費の助成に関しては保険の適用部分のみである。入院等に至った場合は食事療養費といったものを、乳児医療に関しては武蔵村山市の単独事業として負担しているが、ひとり親子ども医療の場合は、東京都の制度どおり、自己負担になっている。小学生を対象にしたアンケート調査なので、子ども医療やひとり親医療の対象者が回答するので、所得制限の撤廃や入院時の食事療養費の負担を市にしてもらいたいということが主眼になると思う。

(佐々会長) 問26は東京都に報告する設問ではないので変更可能ではないか。選択肢の1～7までは小学生の保護者に尋ねる内容としてはそぐわないのではないか。給食費の撤廃等、対象者に考慮した選択肢にするべきではないか。

(事務局) その辺りは調整する。

(佐々会長) 回収率はどのくらいを見込んでいるか。また、前回の

	<p>次世代育成支援行動計画策定時の回収率ほどの程度か。回収率を高める工夫はどういったものを講じるのか。</p> <p>(事務局) 前回の次世代育成支援行動計画時の回収率は30数%。他自治体の実績を参考に、今回は回収率50%を目標にしている。督促状兼礼状を送付し、回収率を上げるために督促状兼礼状を送付し、市民の意識を喚起する。正確な数字に関しては次回等に提出する。</p> <p>(佐々会長) あまり回収率が高くないので、今回は目標の回収率に近づけるよう工夫をしてもらいたい。各委員から出された意見を整理ししっかりした調査票を作成してもらいたい。</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 次回会議の開催日程</p> <p>○事務局より、次回会議の開催日程について説明が行われた。 ※資料3</p> <p>(事務局) 次回開催は、平成26年の1月を予定している。日にちは決まり次第すみやかに各委員に連絡する。次回会議では、アンケート調査の集計結果の報告と今後の事業計画の方向性について検討していただきたい。また武蔵村山市の人口動態の資料を示す予定である。さらに認定子ども園や小規模事業者や事業所内保育事業者等、今後予定されている施設サービスについての報告も行いたいと考えている。</p> <p>(2) その他</p> <p>5 閉会</p>
--	--

配布資料	<p>○第1回子ども・子育て会議の会議録・・・・・・・・・・資料1</p> <p>○武蔵村山市における保育施設等の概要・・・・・・・・・・資料2</p> <p>○次回会議の開催日程・・・・・・・・・・資料3</p>
------	---

会議の公開・非公開の別	<p><input checked="" type="checkbox"/>公開 傍聴者： 0 人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>()</p>
-------------	--

会議録の開示・非開示の別	<p><input checked="" type="checkbox"/>開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等：)</p>
--------------	---

庶務担当課	健康福祉部 子育て支援課 (内線：182)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)